

## サツマイモ（ヒルガオ科）の概要

### 1 性格

#### (1) 原産地と品種

- ・サツマイモは、アメリカ大陸の熱帯地帯原産とされているが、野生種はまだ発見されていない。
- ・わが国へは、1597年に中国から宮古島へ入ったのが最初とされ、その後ルソンから薩摩へ、長崎には琉球からもたらされ、江戸時代末期には国内に普及した。
- ・サツマイモの好む環境は、生育期には多雨、イモ肥大期には強光、乾燥する天候が望ましい。
- ・寒さに弱く、土壌は酸性がよく、アルカリ性は好まない。
- ・品種として、青果用、原料用、飼料用、加工用、野菜用等がある。

#### (2) 特性

- ・サツマイモはヒルガオ科でいくつかの条件がそろえば花を咲かせる。
- ・根の種類には親根、つる根、種子根があるが、イモになりやすいのはつる根の3～5節から出る根である。
- ・イモ苗の活着後10日すると、イモになる根とならない根に分かれ、イモが本格的に太りだすのは2カ月後である。

### 2 栽培

#### (1) 準備

- ・麦の穂が出そろい、ボタンや藤の花が咲くころになると植え付け時期に入る。
- ・一般には6月に植えて、10月に収穫するのが普通である。
- ・フィルムマルチは植え付け3～4日前の土壌水分の多めのときに張るが、適地温の高い品種（高系）には有効であるが、低い品種（紅赤：金時）はマルチを張らない方がよい。

#### (2) 植え付け

- ・苗は親イモから芽が伸びて10枚くらい展開した先端の8枚くらいを切ったものである。
- ・とり置き期間は3～4日がよく、採苗してから3～4日後に植え付ける。
- ・3～4節の若い節から出る根原基がイモになるので、そこが深さ10cmにくるように植える。
- ・畝幅は90cm、株間は25～40cmの範囲にする。

#### (3) 管理

- ・植え付け後1週間で活着し、イモの分化が始まる。
- ・イモの分化は植え付け後約1か月で終わるので、追肥を行う。
- ・夏には旱天が続くが、8月下旬頃にはかん水すると弊害（丸イモ、ゴボウ根、皮脈、裂開、萌芽、皮色低下など）が出る。

#### (4) 収穫と貯蔵

- ・収穫は植え付け後 120 日前後を目安とする。
- ・つる切り、マルチ除去、掘り取り、結束、運搬、一時貯蔵という流れで行う。
- ・サツマイモは 13～15℃が貯蔵適温で、10℃以下では灌漑を受け、15℃以上では芽が伸びる。
- ・少量貯蔵なら発泡スチロールの箱に穴をあけ、深さ 50 cm くらいに埋めておく。